

わたしたちの あめりか旅行 井上芳子（会員）



ニール・チョス氏宅の裏庭に立つ井上芳子さん

福田先生に引き継ぎ、楽しかったアメリカ旅行の報告をさせていただきます。先生をのぞいて残る全員、初めて飛行機に乗る、初めて日本を出るといった箱入り娘(?)でしたので、この旅行が、各々にとっていかに印象深く、いかに大きな意味を持つものであったかは申し上げるまでもありません。

ふだんの生活や仕事から完全に切り離された開放感と、生れて初めての海外旅行、つまり物事を最初に経験する時の新鮮な気持ちに、何もかもめげずらしく、楽しく、ニューヨークの道路のごみも、やかましい道路工事にも気にならず、人夫もアメリカ人だわと当り前の事に感心したり、笑ったり、交通渋滞にも不思議にいらいらしない心のゆとりが生れ、本当に一秒一秒を楽しみました。

女性の特性でしょうか、ショッピングには、皆、大いに興味を示し、ウォール街などはつまらなさそうな顔をしていたのも愉快でした。

「空が晴れていなければ下が見えません。さあ、今、昇って」とガイドにせかされて昇った摩天楼から見下したニューヨークは、まさに見なれた絵葉書の通り、そびえたつビルのジャングルで、そのすぐらいビルの谷間を走りまわるタクシーの黄色が、はっとする位きわだって印象的でした。

「自由行動は本当に自由にしましょう!」との理解ある福田団長のお言葉に、規定の観光日程の後、私達は三々五々に分散し、ある人はなつかしき日本をのぞいて日本料理屋に（見つからなくて中華料理屋にたどりついたとか!）ある人は地下鉄にと、子供に帰ってその冒険心を大いに満足させました。

ニューヨークから一時間程飛行機に乗って着いたワシントンは、雑踏のニューヨークと異り、深々とした緑に包まれた、静かな、きちんとした感じの都会で、ニューヨークを、ふだん着の都と例えれば、ワシントンはさしずめよそ行きのと申しませうか、何事フォーマルで、ヒッピーのおよそみずぼらしく見える所でした。ホワイトハウス、プラカードを持って静かに座り込んでいた数人の反戦デモ隊、キッシンジャーのオフィス、新聞紙上でしかお目にかからなかったものを目の当りにして、何か急に世界状況が身近に感じられました。

ワシントンでの日程は、ヨルダ・ノヴィック先生のお骨折りでぎっしりと盛り沢山でした。先生はハンガリーのバルトークゼミに御出席の為お日にかかれませんでした。そのおす宅を我が家同然、ピアノの練習に、スキヤキパーティーにと使わしていただきました。アメリカで有名なクラーク・メソッドの創始者、フランシス・クラーク先生にお会いしたのもこのお宅でした。ノヴィック先生の

秘書役を務めていらっしゃる、ワシントンカトリック大学講師の和田敏将さんとおっしゃる日本の方を翻訳に、クラーク先生のピアノ教育論をうかがったり、こちらの演奏を聞いていただいたり、質問も活発に出て大いに有意義な半日をすごしました。

和田さんの事を御紹介しますが、アメリカに来られてからもう6年とか、トランベット・指揮が御専門でワシントン大学の大学院を出られた方ですが、奥様のナンシーさん（アメリカ人）と共に、翻訳に、案内に、運転にと、本当に心細かく気をくばって私達の世話をして下さいました。私達の為に、わざわざお茶碗まで買って揃えて下さったとか、その思いやりに皆、感激をいたしました。

クラーク先生達とお別れした私達は、和田さん運転の大型ステーションワゴンに積み込まれ、大急ぎでメリーランド州立大学に、リリークラウスの演奏会を聞きに行きました。この大学では、国際夏期音楽祭が開かれていて、この演奏会はその一連の催しの幕開けとなっていました。演奏会の後にはレセプションがあり、私達もはるばる日本から来たお客様という事で、写真に入っていたり、サインをいただいたり、あれこれと楽しくお話をかわしたりいたしました。

何か日本ではまだ演奏家と聴衆の間のコミュニケーションが足りない気がいたしますが、このような音楽会後の気さくなレセプションは本当にいいものだと思感しました。

この日の夕方、小雨けぶる中を私達は更にワシントンカトリック大学構内にある、ナショナルシュラインと呼ばれる、アメリカで一番大きなカトリック教会に、パイプオルガンの演奏を聴きに行きました。演奏者はカナダ生まれのコンラッド・バーニエ博士で、85才の御高齢にもかかわらず、芸術豊かなすばらしい演奏を聞かせて下さいました。

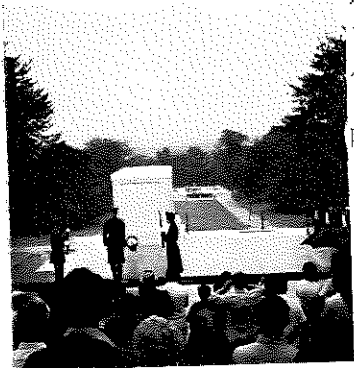
博士は過去45年にわたってワシントン大学音楽部でオルガン科の主任教授を務められ、少くとも一年に一度ナショナルシュラインでオルガン演奏会を開かれるとかで、このチャンスを得られた私達は本当に幸運でした。

ワシントン三日目は、午前中はモンゴメリー大学で交換演奏会、午後からは、昨日行ったメリーランド大学に、国際音楽祭の一大行事のピアノ国際コンクールのセミファイナルを聴きに行きました。審査員の一人として、リリークラウス先生も出席されておりましたが、国際的に腕を競い合う場としてさすがに出場者のピアノは圧倒的にうまく、皆で心から感心いたしました。

次はいよいよインターロックンです。デトロイトで飛行機を乗りかえ、ミシガン州のトラヴァースシティに飛んだわけですが、その



ケネディのお墓の上で。右端に立つのが和田敏将氏



ワシントン・アーリントン基地
での儀仗兵の交代一見の価値が
ある。

途中、おもしろいハプニングがありました。プロペラをつけた、今までに比べてずっと小さな飛行機が、無事舞い降りた地方空港は終点でなくて、途中立寄るフロントという所だとわかったのは、バッグを肩に全員降りようとした矢先の事でした。「大変、福田先生は降りちゃった」の声に、慌わてて飛行機に待ってもらい、ガラとした空港待ち合い室に一人ぼつと座る福田先生を連れ戻しに、タクシーを駆け降り、駆けのぼりました。それからは皆、飛行機が降りたとなんに腰を浮かせず、ここは何処？ と用心深く眺めまわすせがつかしました。(つづく)

読者の皆さまの声をお待ちしています。11月より来年1月10日迄に御感想・御意見・写真・作曲などお便りをお寄せくださった方の中より、「子供のために」のレコード試聴盤をさし上げます。

世界のピアノ名曲85

カワイ楽譜編 菊倍判 200頁 ¥1000

バッハ……………メヌエット	モーツァルト……………メヌエット
ハイデン……………アレグロ	ベートーヴェン……………エコセーズ
ヘンデル……………サラバンド	メンデルスゾーン……………無言歌
ダカン……………かっこう	スカルラッティ……………ソナタ
ランゲ……………花の歌	ショパン……………前奏曲
リュリー……………ガボット	ラモー……………2つのリゴドン
マリエ……………金婚式	ムソルグスキー……………古城
ブラームス……………ワルツ	フォーレ……………無言歌
グルック……………アンダンテ	フランク……………カノン
シューベルト……………即興曲	アルベニス……………タンゴ
シューマン……………トロイメライ	その他の名曲を含め、全85曲収載

東京都豊島区駒込 2-6-7

☎ 170 ☎ 910-7455-6

カワイ楽譜

<東音>ピアノ教室 No43

バスティンの作品から その3

お聞きなさい 天使のうたを

作曲 メンデルスゾーン

Charles Wesley

クリスマスも来月にせまりましたので、クリスマスソング集 Vol.3 の中より、この曲を選びました。バスティンメロッドの中の副教材ともいべき曲集の中に、クリスマスソングばかりを集めたのが、1巻から3巻までと、あと四手のためのクリスマスソング集があります。いずれも、スミソール・バスティン女史の編曲によるものです。